

## 2023年度 決算報告

### 1 概要

2023年度における本学園を取り巻く経営環境は、少子化が進行する中、主たる収入である学生生徒等納付金等の伸びは限定的である一方、経済面においては円安・物価高などにより経費負担が増すなど厳しい状況にありました。

このような中においても、各部門は教育・保育環境の質的向上を図りながら、過去を踏襲することなく業務の見直し、効率化を進めるなどの取り組みを図ってきました。

この結果、経常的な収支のうち、本業の教育活動の収支を示す教育活動収支は、対前年度決算と比較し教育活動収入が4,303万円増加し、教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合わせた経常収支差額は9,097万円の収入超過となり、前年度決算との比較で1,935万円増加しました。

経常収支差額比率は本学園の中期計画の目標値である5%を上回る5.3%となりました。

支出面については、茨城女子短期大学においては、エアコン室外機の修理を実施し、空調環境の維持に努めました。また、火災時に学生、教職員の安全を守るために、自動火災報知器と誘導灯を最新機種に入れ替えました。

大成女子高等学校においては、不審者の侵入検知など防犯対策の強化を図るため機械警備システムの追加導入を実施するとともに、省エネ効果を高めるため誘導灯のLED化を実施しました。

認定こども園及び保育園関係では、園舎の屋根やトイレの改修のほか、老朽化した暖房機器や調理機器の入替などを行いました。

また、2024年4月に開園した大成学園ともべ保育園の駐車場整備や事務機器の設置など開園準備の経費を支出しました。

学生、生徒への経済的支援としては、茨城女子短期大学においては、2020年度から実施されている高等教育修学支援制度を、できる限り多くの学生に活用してもらうため、より一層の周知に努めるとともに、授業料等の減免や奨学金制度の周知を継続的に行いました。

大成女子高等学校においても引き続き授業料の減免など、経済的に不安を抱えた生徒が安心して授業に専念できる環境を整えてきました。

### 2 資金収支計算書

資金収支計算書は1年間の活動に対応する全ての収入と支出の内容を明らかにして支払資金の顛末を表します。この計算書には当該会計年度に関係ない取引が入っていますので、調整勘定で資金の収支が修正されます。

主な収入項目である学生生徒等納付金収入は6億1,087万円で、前年度比281万円の増加となりました。

一方で、補助金収入は10億2,323万円となり、前年度比2,596万円の減少となりました。

また、支出項目の人件費支出は10億6,637万円で、前年度比6,034万

円の増加となりました。

教育研究経費支出は2億3,305万円で、前年度比2,583万円の減少となりました。

管理経費支出は1億7,742万円、前年度比4万円の減少でほぼ同額でした。施設関係支出は530万円、前年度比1億3,645万円の減少となりました。資産運用支出は減価償却引当特定資産繰入支出（5億円）や有価証券購入支出（6,000万円）等により5億8,900万円となり、前年度比5億5,841万円の増加となりました。

翌年度繰越支払資金は、前年度より3億2,249万円減の15億5,831万円となりました。

### 3 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、当該会計年度の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにするためのものです。

2023年度の事業活動収入は17億2,977万円、事業活動支出は16億3,294万円で基本金組入後の当年度収支差額は8,858万円となっています。

### 4 貸借対照表

貸借対照表は年度末の財政状態を表します。

また、資金収支計算書や事業活動収支計算書は単年度の計算書ですが、貸借対照表は法人化以来の累積の残高です。

2023年度の資産総額は70億180万円、前年度末より5,682万円の増加となりました。

資産から負債を差し引いた、純資産は67億3,487万円、前年度末より9,683円の増加となりました。